



Information

2019.10

Vol. 85

日本気象協会の最新事業のご紹介

Contents1	日本気象協会、茨城県常総市で避難確保計画策定支援の実証実験結果を報告 要配慮者利用施設における計画作成の現状課題を関係者で共有
Contents2	全国版「売りドキ!予報」販売を開始 小売業向け商品需要予測サービス ～「経験と勘」から「ビッグデータ活用」へ。雨による影響の精度も向上～
Contents3	電気学会から、令和元年表彰として第75回電気学術振興賞(進歩賞)の表彰を受けました
Contents4	日本気象協会が新海誠監督 最新作「天気の子」とコラボレーション ～天気予報専門メディア「tenki.jp」で6月28日から動画コンテンツを6週連続公開～
Contents5	「熱中症ゼロへ」プロジェクトが訪日外国人へ熱中症予防を啓発 あおいで熱中症対策!紙製の扇子型リーフレットを新たに配布開始 日ざしをよける体験として、日本の伝統的な庭園にて和傘の無料貸し出しも



北海道斜里郡 知床五湖

日本気象協会、茨城県常総市で避難確保計画策定支援の実証実験結果を報告 要配慮者利用施設における計画作成の現状課題を関係者で共有



要配慮者利用施設向け避難確保計画策定支援の実証実験の報告会の様子

日本気象協会は、2019年7月25日（木）、茨城県の常総市役所にて、常総市内の要配慮者利用施設で実施した「避難確保計画策定支援」の実証実験（2019年4月～7月）に関する報告会を、常総市とともに開催しました。

要配慮者利用施設の避難確保計画の策定は、洪水や土砂災害に備えるために、2017年の法改正で義務化されましたが、その策定率は全国的に2割未満（2018年3月末時点）です。報告会では、日本気象協会と常総市より、実証実験の対象施設が抱える災害リスクや各施設の特性を考慮した

計画策定について紹介した後、要配慮者利用施設の担当職員の方を交えて、避難確保計画策定の現状課題などを話し合いました。

今回の実証実験は、義務化された項目のうち、要配慮者利用施設が実際に「避難確保計画作成」を行う際の課題点を明らかにすることを目的に、施設管理者の方が自ら主体的に計画を作成するための避難支援サービスとして実施しました。

報告会には、日本気象協会と常総市の職員、実証実験の対象となった要配慮者利用施設の管理者の方など20名が出席。本実証実験を担当した日本気象協会防災ソリューション事業部副部長山下啓一より、実証実験の内容と、「避難確保計画策定ツール」によって、いずれの対象施設も、概ね1時間半以内に避難確保計画書を作成することができた成果などを報告しました。



この情報に関する詳細につきましては、
下記、ホームページまで。

<https://www.jwa.or.jp/news/2019/07/6798/>

全国版「売りドキ！予報」販売を開始 小売業向け商品需要予測サービス ～「経験と勘」から「ビッグデータ活用」へ。雨による影響の精度も向上～

日本気象協会は、小売業向けの商品需要予測サービス「売りドキ！予報」の全国版の提供を2019年7月16日（火）より開始しました。関東版を2019年4月より提供していましたが、これにより、全都道府県の市区町村ごとの需要予測指数の算出が可能になり、全国のスーパーマーケットなどで導入いただけます。また、全国版に拡張するにあたって、雨（降水）による売り上げの影響効果を改良し、より高い精度を実現しました。

「売りドキ！予報」は売り上げが伸びるタイミングを知らせることで、店舗全体の売り上げ増を見込めるだけでなく、売り上げの下がるカテゴリとその時期を事前に把握し、商品の製造量や仕入れ量を抑制することにより、食品廃棄を防ぎ地球環境の保全にも貢献します。また、人手不足が問題となっている昨今、経験や勘に頼らずに多くの従業員が体感気温や気象要素の変化による売り上げ傾向を予測することが可能になります。

■全国版「売りドキ！予報」で改善された内容

エリア・カテゴリごとに降水効果を反映し、予測精度を向上
題新たに雨（降水）の影響をエリア別・カテゴリ別に詳細に解析し、その結果を全国版「売りドキ！予報」に反映しています。「売りドキ！予報（関東版）」よりも、精度の高い予測を提供できるようになっています。

■「売りドキ！予報」に関するお問い合わせ先（法人向け）

①eco×ロジ プロジェクト公式サイト

②日本気象協会 防災ソリューション事業部 先進事業課

■お問い合わせフォーム

Tel:03-5958-8154 Mail:ecologi_contact@jwa.or.jp

このサービス・商品に関する詳細につきましては、
下記、ホームページまで。

<https://www.jwa.or.jp/news/2019/07/4865/>

Contents3

2019.06.17 発表

電気学会から、令和元年表彰として第75回電気学術振興賞(進歩賞)の表彰を受けました

日本気象協会は、メディア・コンシューマ事業部所属の堀江 祐圭が、2019年5月30日(木)に開催された一般社団法人電気学会第107回通常総会にて、令和元年表彰として第75回電気学術振興賞(進歩賞)の表彰を受けました。

■受賞内容

●題 目:「大規模人体複合物理解析に基づく熱中症リスク管理システムの開発と実用化」

●対象者:平田 晃正(名古屋工業大学)、江川 隆輔(東北大学)、柏 達也(北見工業大学)、Laakso, Ilkka(アールト大学)、堀江 祐圭(日本気象協会)

■研究概要

●熱中症リスクを複合物理解析と温熱生理モデルを組み合わせた年代別等の人体モデルに基づき、発汗量や体温上昇量など定量的なリスクを表現する技術を開発

●当該技術と親しみやすいデザインや簡易な入力手法を同時に検討して「熱中症セルフチェック」を開発し、日本気象協会が推進する「熱中症ゼロへ」プロジェクトのWebサイトにて公開

これら一連の取り組みが、個人を考慮した熱中症リスクの提案を可能とした新規性、一般の方でも活用しやすい実用性、として高く評価されました。



表彰式の様子
堀江祐圭(日本気象協会)
平田晃正 先端医用物理・情報工学研究センター長(名古屋工業大学)



この情報に関する詳細につきましては、下記、ホームページまで。

<https://www.jwa.or.jp/news/2019/06/5277/>

Contents4

2019.06.27 発表

日本気象協会が新海誠監督 最新作「天気の子」とコラボレーション ～天気予報専門メディア「tenki.jp」で6月28日から動画コンテンツを6週連続公開～

日本気象協会は、新海誠監督の最新作「天気の子」とのコラボレーションコンテンツを2019年6月28日(金)から公開しています。本コンテンツでは、日本気象協会が運営する天気予報専門メディア「tenki.jp」の特設ページにて動画コンテンツを6週連続で公開するほか、「tenki.jp」のトップページおよび東京都の天気ページを期間限定で「天気の子」のキービジュアルを起用した特別仕様でお届けしています。また、首都圏JRで展開する「tenki.jp」アプリの電車内広告でもコラボを実施しています

世界規模で気象が激甚化するなか、防災・減災の情報を提供している気象会社が果たすべき役割の重要性はますます高まっています。来年2020年に創立70周年を迎える日本気象協会は、「天気の子」とのコラボレーションを通して、多くの方々に気象に興味を持っていただければと考えています。

「天気の子」が届ける新たな時代へのメッセージを、日本気象協会はこの先も空を見守る気象会社として応援します。



このサービス・商品に関する詳細につきましては、下記、ホームページまで。

<https://www.jwa.or.jp/news/2019/06/6520/>

「熱中症ゼロへ」プロジェクトが訪日外国人へ熱中症予防を啓発 あおいで熱中症対策！紙製の扇子型リーフレットを新たに配布開始 日ざしをよける体験として、日本の伝統的な庭園にて和傘の無料貸し出しも

日本気象協会が推進する「熱中症ゼロへ」プロジェクトは、近年増加傾向にある「訪日外国人」を対象にした熱中症予防啓発を、今年も2019年7月1日からスタートしました。

本プロジェクトが2018年に都内の観光案内窓口の担当者を対象に実施したアンケート調査では、「熱中症とみられる症状で、もしくは暑さをしのぐ目的で案内所、施設に立ち寄られた訪日外国人の方はいましたか?」という質問に対し、約2割が「いた」と回答しました。また、めまい、だるさなどの症状を訴えて観光案内施設を利用する方がいたこともわかりました。本プロジェクトでは、観光案内施設が旅行中の訪日外国人の方に向けた熱中症予防対策の啓発拠点になり得ると考え、観光案内窓口を中心に、次の3つの取り組みを行います。

■紙扇子型リーフレットの配布

訪日外国人の方に向けた英語のリーフレットとして、今年度は、折順に沿って折ると、紙扇子になる仕掛けで、あおいで涼むことができる新リーフレットを作成しました。新しいリーフレットには、熱中症の症状、応急処置のほか、緊急時における119番通報の方法や自動販売機での飲み物の買い方など、観光中に役立つ対策を記載しました。



新たに作成した訪日外国人の方向けの熱中症予防啓発リーフレット(左:表、中央:裏面、右:折った様子)

■和傘無料貸し出し

昨年の好評いただいた和傘の無料貸し出しを、今年も文京区立 肥後細川庭園とホテル椿山荘東京で行います。和傘で直射日光を防いでもらうことで、日本文化を体験しながら暑さ対策を実践します。

■浅草観光ボランティアガイド～熱中症予防サポーターバージョン～

今年初めての取り組みとして、7月下旬に1～2日間限定で、「熱中症ゼロへ」プロジェクトとコラボレーションした浅草の観光ボランティアガイドを予定しています。訪日外国人の方を対象としたツアーで、ガイド出発時には英語版の熱中症対策ボードを用いて声かけ、ガイド中の安全なまち歩きのために啓発を行います。ガイド先では、和傘や空調服を体験しながら一休みします。



2018年度和傘無料貸し出しの様子(肥後細川庭園)



この情報に関する詳細につきましては、
下記、ホームページまで。

<https://www.jwa.or.jp/news/2019/07/6524/>